

履歴書および研究業績書記入について

履歴書および研究業績書について、記入例を参考の上、作成願います。
なお、ご提出いただいた書類に記載されている内容は、学校法人工学院大学プライバシー・ポリシーに基づき、個人情報の保護に努めます。

《記入例》

履 歴 書

2023年〇〇月〇〇日

フリガナ コウガク タロウ
氏 名 工学 太郎 印 男

アルファベット表記 Taro Kougaku

フリガナ
学内氏名

本 籍 地 □□県（外国籍の場合は国籍等）

生年月日 1965（昭和40）年2月10日生（53才）

現住所（〒163 - 8677）東京都新宿区西新宿1 - 2 4 - 2

TEL 99-9999-9999 携帯電話 99-9999-9999

E-mail ×××××@××.ac.jp

学 歴

- 1987年 3月31日 ●●●高等学校卒業
- 1987年 4月 1日 ▲▲▲大学××学部△△△学科入学
- 1991年 3月31日 ▲▲▲大学××学部△△△学科卒業
- 1991年 4月 1日 ▲▲▲大学大学院〇〇〇研究科□□□□専攻修士課程入学
- 1993年 3月31日 ▲▲▲大学大学院〇〇〇研究科□□□□専攻修士課程修了
- 1993年 4月 1日 ▲▲▲大学大学院〇〇〇研究科□□□□専攻博士後期課程入学
- 1997年 3月31日 ▲▲▲大学大学院〇〇〇研究科□□□□専攻博士後期課程修了

学 位（学士・修士・博士）、称号

- 1991年 3月25日 ▲▲▲大学より〇〇学士の称号または学位を授与される。
（主論文題目）「◇◇◇◇～に関する検討」
- 1993年 3月25日 ▲▲▲大学より修士（〇〇学）の学位を授与される。
（主論文題目）「△△△△△～に関する研究」
- 1997年 3月25日 ▲▲▲大学より博士（〇〇学）の学位を授与される。
学位記番号：〇〇甲第〇〇号 課程博士
（主論文題目）「〇〇〇〇〇〇～に関する研究」

主たる専門分野：〇〇〇〇、〇〇〇〇

職 歴（教歴の場合は担当科目を記入）

- 【例1】1997年4月1日～現在に至る ABC自動車工業（株）
2007年4月1日～2011年3月31日 DE大学工学部非常勤講師（「材料工学Ⅰ」担当）
2012年9月1日～現在に至る FG工業大学非常勤講師（「材料力学演習」担当）
- 【例2】1998年4月1日（独）HIJ技術研究所主任研究員 就任（2008年3月31日退職）
2008年4月1日KL大学〇〇学部〇〇学科教授 就任（「機械実習」他担当）（現在に至る）

・学内で使用したい氏名がある場合（旧姓等）は記入する。

写真
40mm×30mm

のり付け

- ・高等学校卒業からそれ以降はすべてを記入する。
- ・入学・卒業（修了）年月日については、学位取得日ではなく在籍日を記入する。
- ・大学は学部・学科まで省略しないで記入する。
- ・大学院は研究科・専攻（専修）修士または博士課程まで省略しないで記入する。
- ・大学院博士課程または博士後期課程は「満期退学」、「修了」、「中退」、「在学中」の別を記入する。

- ・博士の学位は、「課程博士」か「論文博士」の別および学位記番号を記入する。
- ・1991（平成3）年7月学位規則改正後の取得者は、表記がそれ以前と異なる。
【例：工学の学位の場合】
<1991（平成3）年6月以前>
称号 工学士
学位 工学修士
学位 工学博士
<1991（平成3）年7月以降>
学位 学士（工学）
学位 修士（工学）
学位 博士（工学）

- ・職歴には、「就任」、「退任（退職）」、「現在に至る」を記入
- ・教歴、担当科目を記入（「××工学」、「〇〇力学」を担当）等ただし、科目数が多いときには、「××工学」他のように省略する。

《記入例》

教 育 研 究 業 績

- ・業績が多い場合は代表的なものとし、著書、学術論文の場合は「他、〇〇編」、建築作品、口頭発表の場合は「他、〇〇件」と表示してもよい。
- ・記入の順序は、年次の新しい順に整理して記入する。
- ・日本学術振興会の科学研究費補助金（科研費）の研究業績の書式に準じて記入すること。
- ・一つの業績に対して、複数名が関わっている場合は、本人氏名に下線を引く。

1. 著書

- ・著者名、著書名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)について記入する。
- ・著者名が多数にわたる場合、主な著者を数名記入し以下を省略すること(省略の場合、その員数を記入)。
- ・各項目の順序は入れ替えていいが、なるべく順番に記入する。
- ・分担執筆の場合、本人の貢献分を記入する。

1	工学太郎, 空気調和ハンドブック (改訂第3版), 丸善, 2017年2月28日
2	八王子次郎, <u>工学太郎</u> , 流体工学入門, 新宿書房, 2010年1月(本人第××を担当p15-24)
3	工学太郎, 冷凍機とヒートポンプ(空気調和・衛生工学便覧), 丸善, 2000年5月25日, 分担執筆(第4編第1章)
4	T. Kogaku, Extended Surface Heat Transfer., McGraw-Hill, New York, 1995

2. 学術論文

- ・学術論文が多数ある場合は新しいもの(または著者が選んだ主要なもの)から15編程度を記載し、「他、〇〇編」のように省略してもよい。それ以外の論文についても省略できるものとし、学術論文全体でおよそ6ページ以内に圧縮することが望ましい。ただし、「I. 査読付論文」は、省略しないで全て記載する。

I. 査読付論文

1	<u>工学太郎</u> , 新宿 花子, トンネルにおける〇〇についての研究, 日本機械学会pp140-150, 2004年1月
2	八王子次郎, <u>工学太郎</u> , 対流形放熱器の放熱特性に関する研究 第2報:低レイノルズ数領域におけるフィンチューブの伝熱特性, 日本機械学会論文集B編48巻5号(またはVol. 48 No.5)pp. 18~23 1999年5月
3	T. Kogaku, J. Hachioji and S. Shinjuku., Buoyancy Effects in Forced Laminar Convection Flow over a Horizontal Flat Plate., Transactions of the ASME. C. J. Heat Transfer, Vol. 45 No.3 pp. 18~24, May 1996

II. 建築・芸術作品等

- ・設計(制作)者名、作品名、設計期間、発表日、発表雑誌等または発表学会等の順で記入すること。

1	<u>工学太郎</u> , 八王子二郎, 新宿三郎 東京都美術館 1998年5月 新建築 1998年6月(またはVol. 34 No. 5)
・	
・	
15	<u>工学太郎</u> 土屋邸 1996年10月 住宅建築 1997年6月 新建築 1997年1月

他、5件

III. 国際学会論文(査読付も含む *は査読付き)

1*	<u>T. Kogaku</u> , J. Hachioji, Influence in a tunnel, World Congress of Neurology(WCN2018), 2018年
・	
・	
15	H. Shinjuku, <u>T. Kogaku</u> , J. Hachioji, Convection-shaped consideration of a radiator, Ninth Chaina-Japan Symposium on Fluidization(JFF-9), 20-25, 2006年12月18日

他、2編

IV. 学術雑誌、商業誌、研究機関への研究報告、展望、解説、論説など

1	<u>工学太郎</u> , 新宿花子, 冷凍機と〇〇〇〇, △△△△学会論文誌, 32巻, 2号, pp. 15~18, 2000年4月

V. 口頭発表(IIIを除く)

1	八王子次郎, <u>工学太郎</u> , トンネルにおける〇〇への影響, 第9回◇◇◇◇研究会, 2015年5月(招待講演)
・	
・	
15	<u>工学太郎</u> , 新宿花子, トンネルにおける△△△の研究, 第8回〇〇〇推進シンポジウム, 2018年10月

他、13件

《記入例》

3. 教育上の業績

- ・授業担当経歴（主要なもの。卒論、セミナーは記入しない。学部、大学院は区別して記入する）
- ・授業改善・教材作成（授業における創意工夫の中の顕著なもの。科目新設・カリキュラム開発に関するものも記入する）
- ・社会への教育的サービス（オープンカレッジ、科学教室など。非常勤講師歴は、履歴書の中の職歴に記入する）
- ・教育関係職務、各種学内職務（教育評価改善委員会委員、学生支援委員会委員、入学試験委員会委員、試験委員会委員、各種委員会委員など）
- ・その他（自主ゼミ・課外活動など、指導卒論生院生の顕彰、教育に関する研究活動・学会活動・著作など）
- ・2ページ以内にまとめて記入すること、また、該当項目がなければ記入不要

1. 授業担当経歴（主要なもの。卒論、セミナーは記載しない。学部、大学院は区別して記述する。）

- 大学工学部 機械システム工学科
 - ・機械システム基礎演習（1年次，2014年～）
 - ・デジタル制御（3年次，2017年～）
- 大学大学院 機械工学専攻
 - ・システムバイオロジー特論（2015年～）
- △△△大学 理工学部
 - ・特別講義（2011年）

2. 授業改善・教材作成（授業における創意工夫の中の顕著なもの。科目新設・カリキュラム開発に関するものも、ここに記載する。）

- ・○○○科目では、他分野とのつながりを意識させるようにしながら授業を実施している。
- ・△△△演習では、現地での見学や調査を積極的に取り入れた授業を実施している。

3. 社会への教育的サービス（オープンカレッジ、科学教室など。非常勤講師歴は、履歴書の中の職歴に記載する。）

- ・○○中小企業振興財団 技術懇親会 セミナー講師
- ・△△△ミーティング、セミナー講師

4. 教育関係職務、各種学内職務（教育評価改善委員会、学生支援委員会委員、入学試験委員会委員、試験委員会委員、各種委員会委員など。）

- ・機械システム工学科 学科幹事（2016～2019）
- ・試験委員会委員（2014年～現在）

5. その他（自主ゼミ・課外活動など、指導卒論生院生の顕彰、教育に関する研究活動・学会活動・著作など。）

- ・○○○大学大学院生の指導
部門学生優秀講演会表彰，日本機械学会◇◇◇◇分門，2018.

4. 学会（委員会関係も含む）及び社会における活動状況等

- ・新しい順に、所属学会の活動を中心に記入すること。

2020年4月～現在	○○○○学会
2018年8月～2019年7月	△△△△学会 編集委員
2015年4月～現在	◇◇◇◇学会

5. その他の業績（科学研究費採択課題・特許・資格・賞罰も含む）

- ・新しい順に、所属学会の活動を中心に記入すること。
- ・科学研究費採択課題は、研究期間およびタイトル、審査区分、代表等の区分を記入すること。

科学研究費採択課題	
2016年～2018年	○○○○および△△△△を考慮した××手法 基板研究(C) 代表者
特許	
2009年12月17日	特許 ○○○判定方法 <u>工学太郎</u> 八王子次郎
資格	
賞罰	

履 歴 書

年 月 日

フリガナ
氏 名

印 男・女

アルファベット表記

フリガナ
学内氏名

本 籍 地

(外国籍の場合は国籍等)

生年月日

(昭和) 年 月 日生 (才)

現住所 (〒)

写真
40mm×30mm
のり付け

TEL

携帯電話

E-mail

学 歴

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

学 位 (学 士 ・ 修 士 ・ 博 士) 、 称 号

年 月 日 大学より の学位または称号を授与される。
(主論文題目) 「 」

年 月 日 大学より の学位を授与される。
(主論文題目) 「 」

年 月 日 大学より の学位を授与される。
学位記番号: 課程博士・論文博士
(主論文題目) 「 」

主たる専門分野: |

職 歴 (教 歴 の 場 合 は 担 当 科 目 を 記 入) |

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

教育研究業績

1. 著書

1	
2	
3	

2. 学術論文

I. 査読付論文

1	
2	
3	
4	
5	

II. 建築・芸術作品等

1	
2	
3	
4	
5	

III. 国際学会論文（査読付も含む *は査読付き）

1	
2	
3	
4	
5	

IV. 学術雑誌、商業誌、研究機関への研究報告、展望、解説、論説など

1	
2	
3	
4	
5	

V. 口頭発表(IIIを除く)

1	
2	
3	
4	
5	

4. 学会（委員会関係も含む）及び社会における活動状況等

5. その他の業績（科学研究費採択課題・特許・資格・賞罰も含む）

科学研究費採択課題	
特許	
資格	
賞罰	